

# きぼうのいえ ニューズレター

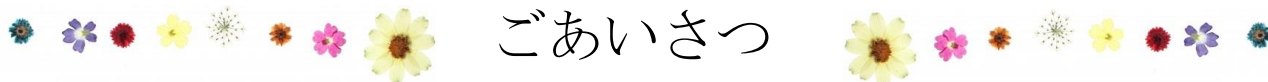


## 2019年 冬号

特定非営利活動法人 きぼうのいえ  
〒111-0022 東京都台東区清川2丁目29番12号

電話：03-3875-7523 Fax：03-3875-7525  
E-Mail：kibounoie777@mbr.nifty.com  
ホームページ：http://www.kibounoie.info

台風19号で被災された皆様、ならびにご家族、関係者の皆様には謹んでお見舞いを申し上げます。被災地におかれましては、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



## ごあいさつ

クリスマス、すなわちイエス・キリストのお誕生の記念日である12月25日と1月1日は毎年同じ曜日になります。当たり前のことですが、7つの夜を過ごして曜日が一巡し、8日目の朝に元旦を迎えることになります。子どもが生まれて8日目に名前をつけて祝うユダヤの習慣から、キリスト教会では1月1日を「主イエス命名の日」としてお祝いしてきました。赤ちゃんやその家族にとっては、一人の人間の人生の歩みがスタートしたことを今一度思い、名前に込められた願いと祈りを改めて心に刻む時となるでしょう。こうした習慣や暦は、しばしばその社会や共同体の文化を伝えるものとして受け継がれてゆきます。

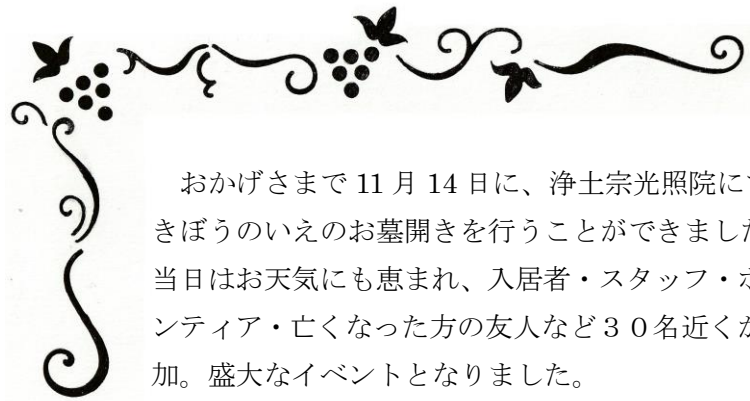
また、同じようであって、同じではないことがこの世の中にはあるように思います。例えば日曜日がやってきたとき、それを同じ曜日に戻ったと捉えるのか、あるいは新しい週の始まりに立ったと捉えるかということです。先の「8日目」という表現はたぶん後者の捉え方です。ただ単に時間を過ごしたということではなく、新しいスタートに立ったと捉えるのです。私事で恐縮ですが、まもなく還暦の年を迎えます。時が流れて十干十二支（じっかんじゅうにし）が一巡りしたというのではなく、新しいありようを求められるチャンスがやってきたと受け止めてゆきたいと思っています。

きぼうのいえも18年目となります。大切にしてきた文化を伝えるものとして、成人の季節を迎えていると言ってもよいのかもしれませんが。わたしたちがこれまで大切に続けてきたもの、そしてこれからも大切にしてくこと、それはそこに営まれる生活です。きぼうのいえのビジョンを示し、わたしたちにその働きを託された神さまの永遠の命のうちに、日々を懸命に生きること。訪れる毎日、一日一日を、かけがえのない新しい出会いと支え合いを見いだす日として受け止めてゆくことができますよう、願っています。

きぼうのいえに関わってくださるすべての人びと、みなさまお一人おひとりが、喜びを日々の営みのうちに発見し続けてゆけますように、新しい年の平和を心から祈念いたします。

理事長 司祭 下条裕章





おかげさまで11月14日に、浄土宗光照院にて、きぼうのいえのお墓開きを行うことができました。当日はお天気にも恵まれ、入居者・スタッフ・ボランティア・亡くなった方の友人など30名近くが参加。盛大なイベントとなりました。

まずは、屋上の礼拝堂で、理事長によるキリスト教式のセレモニーを行いました。お花を生けてくれたのは、華道の心得のあるボランティアN氏。赤い花は天を、白い花は地を表し、その間に我々が集うという意味が込められています。

## 墓開きレポート



その後、ご近所にある光照院へ。歩ける人は散歩（リハビリ？）がてらに歩き、他は車いすとボランティアが出してくれた車で向かいました。入居者の多数が、そろって外の行事に出かけていくのはめったにないことです。

そしていよいよお墓開き。光照院の住職吉水岳彦さんと、きぼうのいえに古くから関わってくれている福井の僧侶山田義浩さんがお経をあげる中、14体のお骨をお納めました。

お墓開きの後、光照院の本堂へ案内してもらい、美味しいお茶とお菓子をいただきながらしばし休憩。いつもはお菓子に目がない入居者のおじさんたちも、緊張しているのか遠慮げみ。ご住職が光照院の歴史や壁に掛けてある絵の由来など興味深いお話で、私たちを和ませてくださいました。



皆が一息ついたところで、お施餓鬼供養をしていただきました。こちらは毎年礼拝堂で行う行事で、お寺に出向いて行うのは初めてのこと。きぼうのいえから旅立った仲間だけではなく、希望した人は親類縁者の名前も読み上げて供養します。最後に、「きぼうのいえ お施餓鬼回向の文」を全員で唱和。高齢の入居者たちも、配られた回向文を一生懸命見ながら真剣に唱えていました。

こうして、お墓開きは無事終了しました。

当日駆けつけてくださった方々、遠くから声援を送ってくださった方々、そして先に旅立った方々に、心から感謝いたします。

(中川 竜)



## 玉さんの玉袋

2016年7月8日 スタッフRの日記より

山谷の玉三郎、玉さんが逝く。

きぼうのいえが始まって以来、これほど友人が会いに駆けつけて来た人がいたろうか。玄関前の道路には、多いときで20人ぐらいの人が、玉さんに会う順番待ちをしていた。

玉さんは根っからの役者。ファンが多い。一番の友人（と私がかつてに思っている）石やんによると、子供からお年寄りまでそのファン層は幅広い。

数日前、いくど目かの山を越えた後、玉さんの胸にお手製のフェルトの小さなポーチがあった。赤い地に紫の円形のフェルトが縫いつけてあって、そこには黄色で「玉」の文字の刺繍。お守り袋のようだ。目撃情報によると、小学生の女の子が「玉ちゃん、いいものが中に入っているからネ」と言って首にかけていったのだそうだ。

石やんが、「玉のファンだよ、きっと。玉の踊りを見に来るファンがいっぱいいるんだ。その子のお母さんがファンなのかもしれないし。うん、きっとそうだ...」と、私に説明するような、玉さんがどれほどの人かを確認するような口振りで話してくれた。

玉さんの玉袋は謎のまま2〜3日が過ぎ、女の子は、たびたび訪れて親しくなったSさんの娘であることが判明した。スタッフの間では、玉袋の中身の「いいもの」は（興味津々なれど）見ないでおきましょう...と遠慮していたのだが、Sさんはあつけらかんと中身を出して見せてくれた。「家でもくもくと何かやってると思ったら、こんなの作ってんのよ〜」と。

## 役者ですもの、アンコールには応えます。

玉袋から出てきたのは「天国行きの切符」

添えられたお手紙には「玉ちゃんへ これは天国行きの切符です。これをえんま大王さまの前まで行ったとき見せてください。そうすれば、天国へいけるはずです。ぶじ、天国にいけたら、おしえてください。」



その夜、当直スタッフにこの話をしつつ、切符と手紙を玉袋に戻しながら、ああ、切符の最終確認をしてしまったと感じた。深夜1時、脈がいつもになく乱れてくる。2時、あまり変わらない、良くもない。あと2〜3時間で変化がありそうだが。4時、手首の脈が触れなくなる。ときどき息が止まる。見回りに出た当直スタッフが絶妙のタイミングで戻って来る。ふたりで呼吸を見守る。

だんだんと、息が止まる感覚が長くなる。ふと、口から魂が抜けていった...と感じた。目には見えないのだが、いま魂が出た、と思った...確信した。それが最期だった、本当に。

静寂に見送られ、天国への花道を、玉さんは逝ってしまった。

「いよっ、玉三郎！！きぼうのいえを選んでくれてありがとよっ！」



玉さん（山谷玉三郎）の心の叫びともいえる文章を集めた遺稿集を、お仲間が集まって作り上げました。きぼうのいえにも届けていただきました。感謝、感謝。



## 園芸部便り

「福島の花マワリよ〜」ボランティアのYさんがヒマワリの種を分けてくれたのでさっそく植えた。3日後には芽が出て双葉が開き、まずは発育順調である。その後猛暑のため、しおれかけたこともあったが、新園芸部長のKAちゃんが添え木をあてたおかげで復活。お盆のころ、綺麗に花を咲かせてくれた。ちなみに前の園芸部長Iさんはもういない。ガンが治って、都営住宅に引っ越したのだ。月に一度、お菓子を持って元気な顔を見せてに来てくれる。

クリスマス間近の今日この頃、冬枯れの庭の中には小バラが一輪ぽつんと咲いている。



### 平成30年度決算報告書

※単位：円

<収入の部>		<支出の部>	
科目	決算書	科目	決算書
受取会費	442,100	人件費	22,701,537
受取寄付金	9,566,556	修繕費	1,156,744
受取助成金	9,408,000	厨房費	12,357,252
事業収益	33,496,342	水道光熱費	2,683,324
その他収益	285,673	その他諸経費	8,419,891
総計	53,198,671	総計	47,318,748

税引前当期正味財産増減額 5,879,923 円

きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。

振り込み方法は ①郵便振替、②銀行振込み、③インターネット募金 の3つがあります。

きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※ご送金にあたってのお願い：ご支援・ご寄付をくださった方がたのお名前の公表の可否をお伝えください。

① 郵便振替の場合

郵便振替番号：  
00190-6-388670  
名義：きぼうのいえ後援会

② 銀行振込の場合<sup>(※1)</sup>

みずほ銀行 三ノ輪支店 普通  
口座番号：1284037  
名義：特定非営利活動法人きぼうのいえ

③ インターネット募金

ホームページからアクセスして、  
カード決済することもできます。  
<http://www.kibounoie.info/index.html>

● ※1 銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。

### 寄附金受領証明書の発行について

きぼうのいえは認定NPO法人です。

認定NPO法人に対するご寄付は、寄附金控除（税額控除）の対象となり、税制上の優遇措置を受けることができます。寄附受領証明書は、ご寄附の都度発行させて頂いております。寄附受領証明書の再発行はできませんので、ご了承ください。

検討の結果、長野のお墓は、関係者のお祀りを途絶えさせぬように、これからも維持していくことになりました。